

Håfa Adai

グアム日本人学校（全日制）学校だより

平成30（2018）年1月31日

研究主任 石川 裕敏

教育研究の取り組み紹介

グアム日本人学校では、『自らの思いを豊かに表現できる子どもの育成～言語活動の充実を通して～』という研究主題のもと、全職員が一丸となって研究を進めています。「表現力育成につながる活動」と「授業力の向上につながる活動」の2つに分けて活動を行っており、1つ目は子どもを対象とした取り組み、2つ目は教員を対象とした取り組みになっています。具体的な方策は以下の通りです。

〈表現力育成につながる活動〉

- ・ 日記、週末テーマ作文の実施と指導
- ・ 各集会や儀式における作文発表・音読朝会
- ・ 年に2回の読書月間
- ・ 辞書を活用した「語彙力」の育成
- ・ 「書く」力を意識した校内掲示
- ・ 文集「椰子」

〈授業力の向上につながる活動〉

- ・ 研究主題をもとにした研究テーマ
- ・ 研究レポート
- ・ 年に3回の研究授業
- ・ 1人1回以上の授業公開
- ・ **1授業に1つ以上の語彙や用語の習得**
- ・ 学力診断テストに基づく客観的分析

「表現力育成につながる活動」に関しては、子どもたちの活動の様子や作品等をご覧いただく機会がありますので、今回は「授業力の向上につながる活動」に絞ってご説明させていただきます。

まず、上記の研究主題をもとにして、各教員が**研究テーマ**を決めます。その研究テーマに基づいて、1年間授業実践を行い、成果と課題を**研究レポート**にまとめます。それら研究レポートを集約し、**研究紀要**を作成します。この研究紀要の作成過程で、教員同士で授業を見せ合う「**公開授業**」を行います。公開授業には2つあり、全職員が観察を行う**研究授業**と、任意の職員が観察を行う**授業公開**があります。研究授業は年に3回行い、教師の発問や児童・生徒の様子を観察した後に、研究協議を行います。一方、授業公開は、その時間に授業のない職員が中心となって観察を行います。これらの公開授業を通して、職員の授業力向上を図っています。以下は公開授業の効果について国士舘大学の教授がまとめた資料です。

教室に参観者がいると、授業者はいつもより緊張します。発問や指示など言葉かけを吟味し、無駄な言葉がなくなります。子どもの発言を大事にし、子どもを褒めます。たとえ外れた発言であっても、その場に生かそうと努力します。叱ったり排除したりすることはありません。子どもたちの取り組む姿勢も変わります。担任に恥をかかせまいと、一生懸命に頑張ってくれます。（…中略）授業を第三者に公開する（開く）ことは、子どもを育てる特効薬です。同時に、授業力を向上させる即効薬とも言えます。私が授業力をつけ、子どもを育てるために取ってきた手立ての一つは、授業を参観していただいたことです。（ぶんけい 教育の小径 2011年12月号より 国士舘大学 北俊夫教授のコラムより）

また、学力診断テスト時に本校が毎回直面する課題として「**問題文の意味（題意）が理解できていないための誤答**」があり、特に高学年になるにつれて顕著になってきます。この課題を改善するために、本年度から「**1授業に1つ以上の語彙や用語の習得**」を目指して授業を行っております。教師が常に語彙や用語を大切に指導を行うことにより、児童・生徒の語彙・用語の習得を高めることをねらいとしています。1度の授業で確実に習得させることは難しいですが、何度も反復して取り組むことにより、重要な語彙や用語の定着を目指しています。

先日行った学力診断テストは、子どもたち個々人がどれだけ力をつけたのかを測るためのものだけでなく、教員が子どもたちにどれだけ力をつけたかを測るためのものでもあります。テスト結果を真摯に受け止め、成果をさらに伸ばし、課題を克服していきながら、これからも日本と同等の教育を受けられる「グアム日本人学校」として邁進していきたいと思っております。